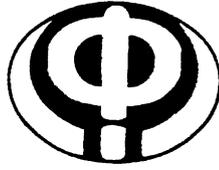


興風中帽章



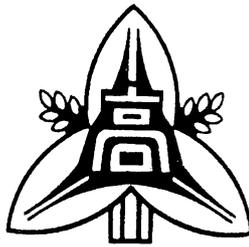
県立小野田中帽章



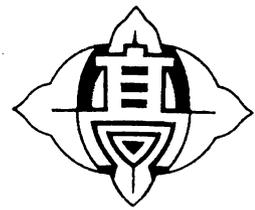
県立小野田高女徽章



県立小野田女子高徽章



県立小野田高(男子)帽章



県立小野田高校章

小野田高等学校の沿革

初代校長栗屋活輔の経歴

おもだかの由来

おもだか同窓会山陽支部

歴 代 校 長 一 覧 表

初代校長	粟屋活輔	明治39年 9月	～	明治44年10月	興風中
校長代理	穴戸進一	明治44年11月	～	明治45年 2月	興風中
校長代理	金子健吉	明治45年 3月	～	大正 元年 8月	興風中
二代校長	金子健吉	大正 元年 9月	～	大正 6年 6月	興風中
校長代理	弘松磯之助	大正 6年 7月	～	大正 7年 4月	興風中
校長代理	本山好太郎	大正 7年 5月	～	大正 7年 8月	興風中
三代校長	五条隆円	大正 7年 9月	～	大正11年 3月	興風中
校長代理	河村良蔵	大正11年 4月	～	大正12年 1月	興風中
校長代理	荒瀬邦介	大正12年 2月	～	大正12年 3月	興風中
四代校長	山根文平	大正12年 4月	～	昭和19年 2月	興風中
五代校長	久保治之	昭和19年 3月	～	昭和21年 4月	興風中
六代校長	平井孝一	昭和21年 5月	～	昭和24年 3月	小野田中
初代校長	川合安雄	昭和19年 4月	～	昭和19年10月	小野田女子商
校長代理	鈴木邦臣	昭和19年11月	～	昭和19年11月	小野田女子商
二代校長	井上正信	昭和19年12月	～	昭和24年 3月	{小野田女子商 小野田高女 小野田女子高
初代校長	小川五郎	昭和24年 4月	～	昭和30年 3月	小野田高
二代校長	石原豊臣	昭和30年 4月	～	昭和33年 3月	小野田高
三代校長	樋田節雄	昭和33年 4月	～	昭和36年 3月	小野田高
四代校長	青木英一	昭和36年 4月	～	昭和40年 3月	小野田高
五代校長	西村彦次郎	昭和40年 4月	～	昭和42年 3月	小野田高
六代校長	上野太郎	昭和42年 4月	～	昭和44年 3月	小野田高
七代校長	岩崎禮太郎	昭和44年 4月	～	昭和49年 3月	小野田高
八代校長	河村秀夫	昭和49年 4月	～	昭和52年 3月	小野田高
九代校長	阿川良平	昭和52年 4月	～	昭和56年 3月	小野田高
十代校長	猪股正	昭和56年 4月	～	昭和58年 3月	小野田高
十一代校長	原田勇	昭和58年 4月	～	昭和62年 3月	小野田高
十二代校長	中川健次郎	昭和62年 4月	～	平成 元年 3月	小野田高
十三代校長	永田弘志	平成 元年 4月	～	平成 3年 3月	小野田高
十四代校長	吉野文男	平成 3年 4月	～	平成 5年 3月	小野田高
十五代校長	福田明男	平成 5年 4月	～	平成 7年 3月	小野田高
十六代校長	原田哲矢	平成 7年 4月	～	平成10年 3月	小野田高
十七代校長	古谷彰敏	平成10年 4月	～	平成13年 3月	小野田高
十八代校長	内田光邦	平成13年 4月	～	平成15年 3月	小野田高
十九代校長	古田健	平成15年 4月	～	平成17年 3月	小野田高
二十代校長	岡崎俊治	平成17年 4月	～	平成20年 3月	小野田高
二十一代校長	菊池昇	平成20年 4月	～	平成23年 3月	小野田高
二十二代校長	小村信	平成23年 4月	～		小野田高

山口県立小野田高等学校の沿革

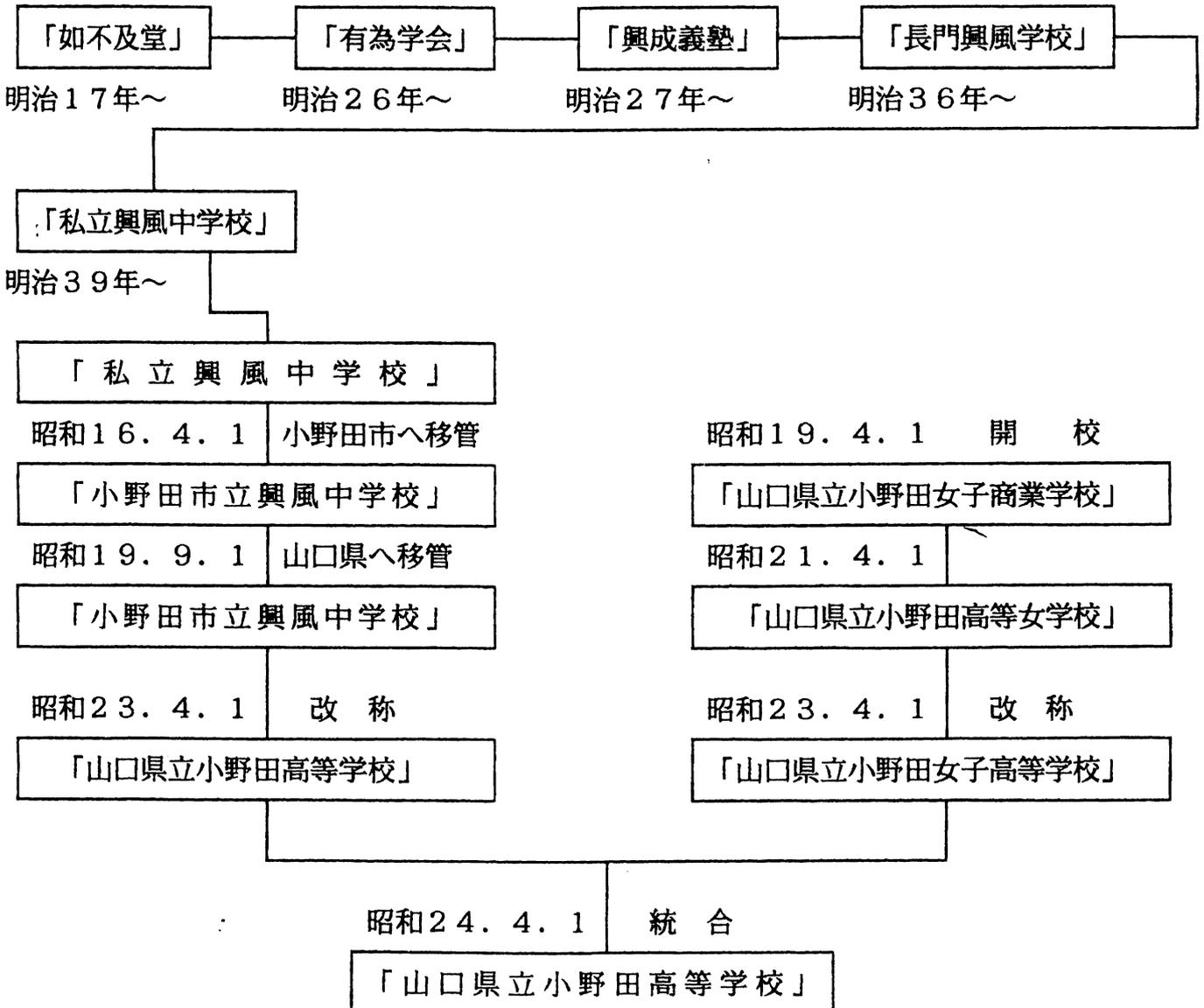
あわ や かつ すけ

◎初代校長＝粟屋活輔（如不及堂の開祖）

山陽小野田市（厚狭郡郡村）東下津出身（1864～1937） 73歳

菩提寺は、山陽小野田市 西下津 洞玄寺 墓所内に墓がある。

- 明治17年（1884）4月、山陽小野田市（厚狭郡郡村）東下津に「如不及堂」私塾を創設。
- 明治26年（1893）4月、「有為学会」と名称を変更する。
- 明治27年（1894）4月、「興成義塾」と名称を変更する。
- 明治36年（1903）4月、「長門興風学校」と名称を変更し、山陽小野田市 柿山に移転した。（現在地）
- 明治39年（1906）4月、「私立興風中学校」と名称を変更する。
- 昭和16年（1941）4月、「小野田市立中学校」と名称を変更する。
- 昭和19年（1944）4月、「山口県立小野田女子商業学校」を開校する。（中川校舎）
- 昭和19年（1944）9月、「山口県立小野田中学校」と名称を変更する。
- 昭和21年（1946）4月、「山口県立小野田高等女学校」と名称を変更する。（中川校舎）
- 昭和23年（1948）4月、「山口県立小野田女子高等学校」と名称を変更する。（中川校舎）
- 昭和24年（1949）5月、「山口県立小野田女子高等学校」を統合して、「山口県立小野田高等学校」として発足する。



如 不 及 堂 の 変 遷

1. 「如不及堂」は、小野田高等学校の前身で、初代校長粟屋活輔が明治十七年（1884）厚狭郡郡村（旧山陽町）東下津の自宅の書齋「如不及堂」で私塾を開いた。
建家は三階建てで、柱は四寸五分角（約15cm角）であった。
2. 明治三十六年（1903）以降、「如不及堂」は、厚狭郡 厚西村（旧山陽町）鳥越二区の長谷川岩太郎先生が購入して、自宅の前に移転して、書齋として使用された。
3. 昭和二十九年（1954）に、「如不及堂」は、厚狭郡 厚狭町渡場の清水藤人さんが、お店を新築される時に、「如不及堂」の柱を使用されて建設された。（現存）

如 不 及 堂 の 開 祖

あわ や かつ すけ
粟 屋 活 輔 （1868～1937）

如不及堂は現在の山口県立小野田高等学校の前身である。創立者・粟屋活輔は、元治元年（1864）に厚狭郡郡村（旧山陽町）東下津で生れた。父・粟屋行蔵は、厚狭毛利氏の側医、母は朝陽館学頭市川玄白の娘であった。活輔は幼少のころ、厚狭毛利家第十二代英之輔の遊び相手を勤め、後の船木女児小学校長・毛利勅子の愛顧を受け、その教育的情熱に深く感化された。厚狭の郷校・協興学舎、三田尻の華浦医学校を経て上京、ドイツ語を学び、明治十四年に東京大学医学部予科に入学した。

十七年、病気休学して帰郷中に、頼まれて自宅の書齋「如不及堂」で私塾を開いた。時に二十一歳であった。その後、私塾は有為学会、興成義塾と改名した。山口県認可の中学校三年課程であった。三十六年、開通直後の山陽鉄道小野田駅に近い高千帆村柿山（現在の校地）に移転し、長門興風学校と改称。ついで三十九年、中学校令による五年制の私立興風中学校となった。初代校長は引続き粟屋活輔、財団法人の初代理事長には高千帆村長・目雅輔が就任した。

四十四年三月、学校の経営に行き詰まり多くの借財を残して辞任し、門司・東京・大阪と教師を続け、福山市盈進商業学校教頭を最後に教育界を引退した。時に六十四歳。晩年は嫡子謹一の開業した伊佐町の医院で静かに余生を送り、昭和十二年（1937）七月没した。

校章『おもだか』の由来

明治30年（1897）毛利公爵家より教育奨励の趣旨で金400円と、毛利氏支藩、厚狭四本松毛利英之輔氏より防長精神の実現を期し「澤瀉」の紋章を染めぬいた校旗が寄贈された。このことは同時に、これを興成義塾（明治27年～明治36年）の紋章として使用することを許したものである。その後明治39年（1906）12月3日、旧校旗にかわって新たに立おもだかの紋章をそのまま、縫取り刺繍、校章として新調、当日校旗制定式を挙、同窓のシンボルとなった。

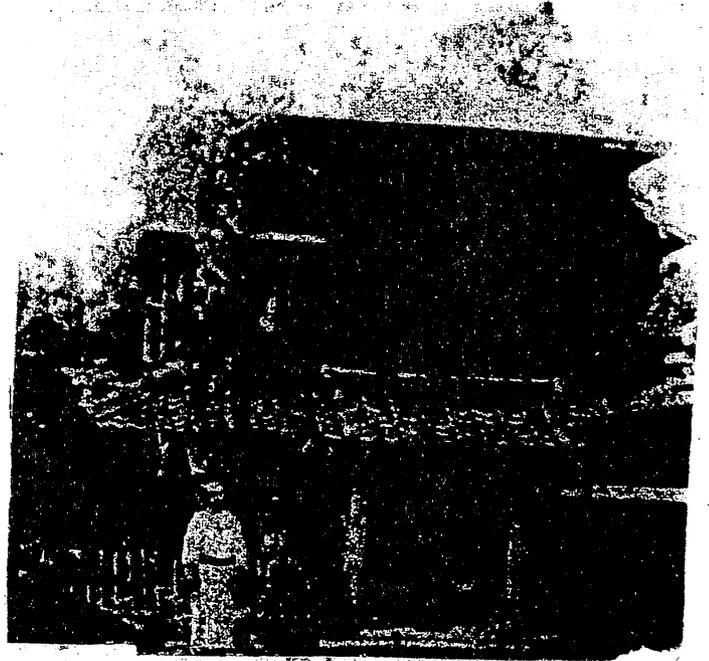
校章 德基時代（南校舎）『おもだか』の由来

県立になった翌年の明治36年6月から徽章を胸につけた。平福百穂画伯の考案になり、初代校長毛利勅子に因み、毛利家紋章「澤瀉」の廓に「徳」の字を花に咲かせたもの。この銀色のメダルには生徒達は大きな誇を感じたものであった。

「如不及堂」の変遷



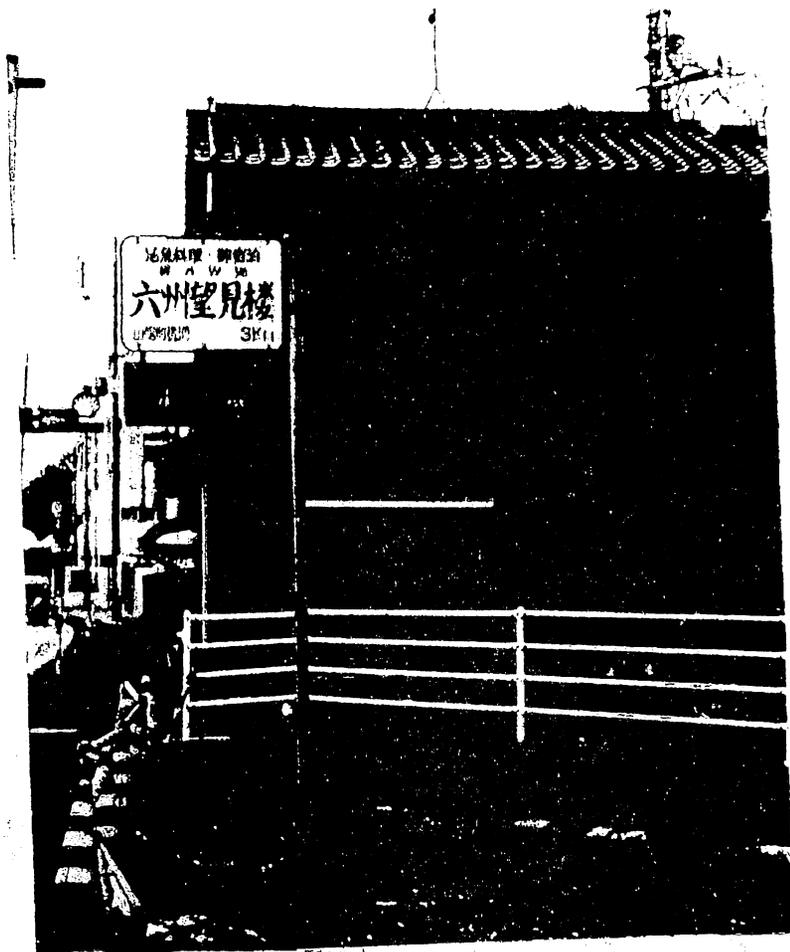
初代「如不及堂」会場と栗屋活輔先生の生家
明治26年 厚西村郡東下津 栗屋家



創立者 栗屋活輔先生 (明43) 二代目「如不及堂」の建家
昭和17年 厚狭町郡鳥越二区长谷川家



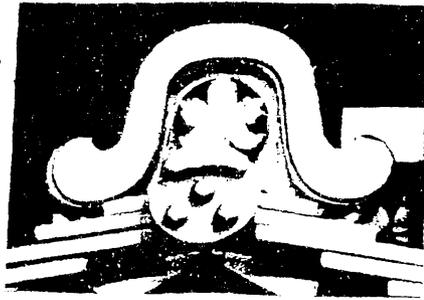
二代目「如不及堂」の跡地
平成20年 山陽小野田市鳥越二区长谷川家



三代目「如不及堂」の建家
平成22年 山陽小野田市渡場 清水家

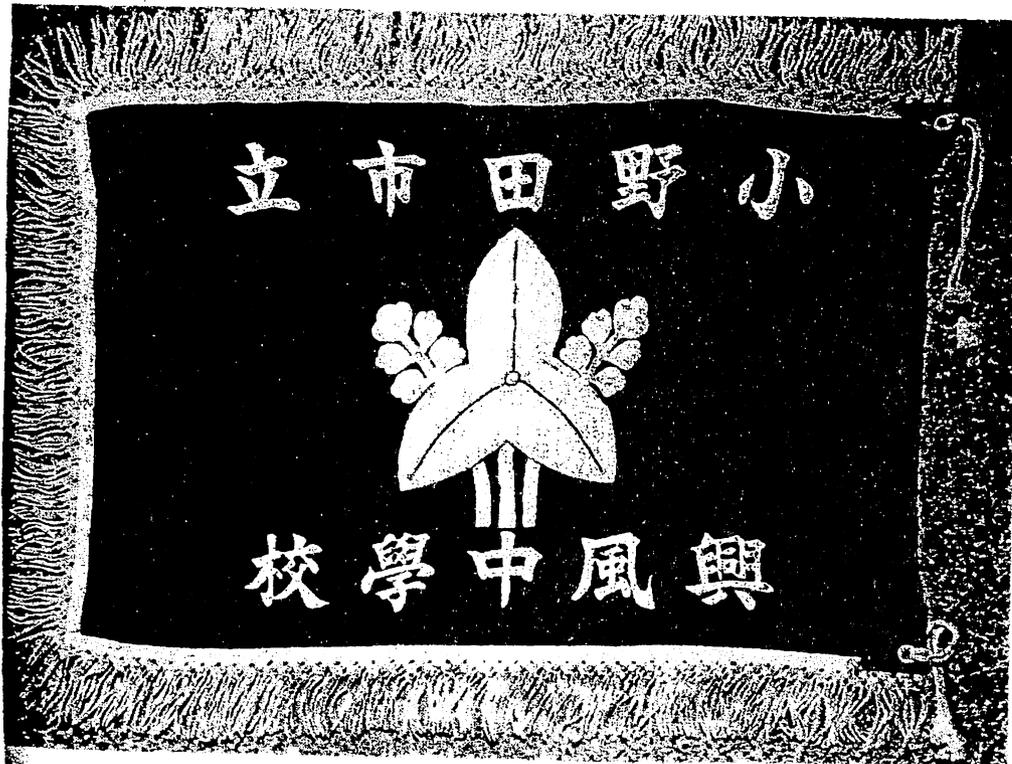


初代「如不及堂」の跡地
平成22年 山陽小野田市東下津 池田家



栗屋活輔夫婦の墓 (山陽小野田市 西下津 洞玄寺)

厚狭毛利家の家紋 立ち沢瀉・一文字三ツ星



市立時代の校旗

興風中学校校歌 桑原直太郎 作詞

一、謂れを聞けば長門なる 厚狭の郡の浅からぬ
学びの海におこる風 はらみはらみて高千帆の
中学校と生れしは 明治三十有九年

二、輪奐美こそ乏しけれ 校地高燥パノラマの
景致に富める海岳や 文明の利器見馴れつつ
活発々地青春の 麒麟児宿る五星霜

三、外界の魔風吹かば吹け 四囲の俗塵立たば立て
わが学園の百千鳥 鳴くや朗々啾唔の声
公明正大日月の 高き理想の花爛漫

四、ややや忠孝両全の 聖論畏みたてまつり
真摯勤勉質実の 三綱領を身に占めて
四時不断にいそしまん 花や紅葉は一さかり

五、威風凛々あたりをば 払ふは何かわが校旗
興風の紋鮮かに 竿頭石突鋭しや
いざもろともにこの旗を とはの命と仰がなん

山口県立小野田中学校校歌 羽音伊佐緒 作詞 雨林 作曲

一、栄ある山河の其名にかけて
輝く歴史を承け継ぐ我等
磨けよ鍛へよ精神を腕を
怖れず弛まず光と競ふ
剛毅の気魄は此処より興る

小野田 小野田 我等が母校
(興風 興風)

二、雲割き風呼び雄図をしるや
真摯の力に貫け理想

黒潮豊かに大道開く
質実勤勉歩武高らかに
進取の意気こそ不滅のいのち

小野田 小野田 我等が母校
(興風 興風)

三、この丘この校旗揚げよ御稜威
天下に覇をなす防長健児
堅忍不拔の志気逞しく

漲る青春湧き出る希望
世紀の凱歌を克ちとる我等
小野田 小野田 我等が母校
(興風 興風)

山口県立小野田高等学校校歌

詞作
作曲

小森川五郎
広重子

一、績^つみ麻^あなす長門国原

潮波よせくるところ

新しく町は興りぬ

小野田 小野田

われらが 故郷

二、くし山の丘の松風

百鳥の声も交りて

若人らここに集いぬ

小野田 小野田

われらが 母校

三、高千帆の池の小波

秋草の影もゆらぎて

若人らここに学びぬ

小野田 小野田

われらが 母校

四、たまきはる生命のきはみ

むらぎもの心はひとつ

若人ら今ぞ結びぬ

小野田 小野田

われらが 誇り

厚 狭 へ お い せ

詞作
作曲

池田 敬子
池田 敬子

一 厚狭はよいとこ 住みよいとこ

義理人情の花も咲く

神宮皇后の見た月が 今日も登るよ

周防の空

一度は来てね 厚狭はよいとこ

遊びに おいでませ

二 かじの浦から 眺める海は

俺の自慢の ふるさとさ

一目六洲見わたして

うまい魚で二ばい やらう

必ずこいよ 俺のふるさと

遊びに おいでませ